



明治2年当時の渡月橋

本物の職人作家が
本物の着物を創る・・・

京・嵐山
手描友禅工房
久利匠

京都市右京区嵯峨天竜寺造路町33-25
TEL (075) 882-2171 FAX (075) 871-6361

◆職人技の公開・見学

- ◆自分で染める染色教室
- ◆レンタル着物で嵯峨野路を

貴方だけの



オートクチュール (誂え染) が



できます・・・



- ・見学300円
- ・染色体験1,000円～
- ・レンタル着物1,500円～



JRA騎手

北村浩平

KITAMURA KOHEI

KYOTIAN I.D.

キョーティアンアイディ

The 104th person

【プロフィール】'83年京都市生まれ。日本中央競馬会・競馬学校、騎手過程第19期卒業。田所秀孝厩舎所属。幼少より乗馬に親しみ、馬に慣れ親しんだ生活を経て、'03年3月、阪神競馬場にて騎手デビューを果たす。初勝利は中京競馬場にて

「のけて負けたらアホ」と言う 攻めの姿勢こそ大器の証か



自らが所属する厩舎だけでなく、他厩舎の馬にももちろん乗る。その馬にあわせて体重調整の意味も含めて鞍は6〜7つを使い分ける。ブーツはデビューから1か月半の取材時で「もう3足目です」という消耗品だ



所属する厩舎の田所秀孝調教師と、自らも元は騎手として活躍した田所氏。北村君を厩舎所属へと導いた理由は？の問には「顔やな」ときっぱり。「センスのありそうな顔つきだったから、会ってみようか」と



実家は、西院にある「京おぼんざいとうつわや 北平」ダービールームがあるほど、馬好きでかつ馬主でもあるオーナー・北村さんが、父親である。「将来は家の馬でダービーを制覇したい」が親子の夢だという

Information

- 田所秀孝厩舎
<http://www.mws.ne.jp/~hidesan/>
- 北平
京都市中京区西大路通西条東入ル二階目上ル
075-311-1873

'03年3月9日、中京競馬場第9レース。「ファルコンシチー」に騎乗、初勝利を上げたのが北村浩平君だ。デビュー第6戦での勝利。後続の馬を三馬身離しての快勝だった。「うれしいです。ひとつ勝ってホッとした」。少し照れた笑顔は、何よりも清々しい。そこに勝利の喜びと、騎手としてスタートを切った誇らしさが伝わってくる。

「いい仕事だと思う。お金がどうのこのじゃない。暴れる馬を乗りこなしたのが乗馬での達成感なら、競馬はどう乗ればその馬の特性を引き出して走ることができ、そして勝てるか。この達成感がたまらない」。騎手の醍醐味はそこにある。

初めて馬に乗せてもらったのは3才の頃。ひとりで乗れるようになったのは小学校の低学年だったという。もちろん自らの意思というよりは、馬好きな父親の影響だ。やがて中学生となった北村君、華奢な体格も相まって、漠然とはあるが馬に携われるひとつの職業として騎手を捉え始める。「レースの最後、直線で馬を叩く迫力がいいなあ、と思って」、中学卒業後、騎手を養成するための競馬学校を受験する。が、あえなく不合格。「その時からですね、真剣に騎手に対する興味が湧いたのは」。1年間の浪人生活を経てスタートした3年間の競馬学校。5時40分の起床（夏には4時40分になる）から始まり、馬の世話をする厩舎作業や実技、学科など細かく決められたスケジュールが続く。体重を保つための食事制限もあり、全寮制の規律も厳しい。自らのモチベーションを保ち続けるのは、騎手となった自分を夢見る信念のみ。14人いた同期生は卒業時には9人に減っていた。

そして今年3月2日。騎手としてのデビューを果たす。6戦目にして1勝をあげ、取材時の4月にはすでに6勝と、同期のトップを走る。快調な滑り出し。

競馬人として、北村君の人生はスタートを切ったばかりだ。先行きはまだまだ見えない。けれども彼のこの言葉に、何が起ころうとも乗り越えられる力強さを感じられる。「ほんとうはいけなけれど、レース中に他の騎手が後ろから声を掛けてくることもあるんですよ。自分の馬を有利に走らせるために、前を走る騎手を動揺させようとして、『おいっ』とかそんなこと。それに気を取られたら、一瞬の間について負けてしまう。のけて負けたらアホですよ。それまで和やかに話していた彼の顔が、瞬間、勝負に挑む顔を垣間見せた。19才とは思えない、その目ははるか先を見据えていた。